教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 食物栄養学科　　資格： 講師　　氏名： 田中　明紀子

研究分野	研究内容のキーワード
臨床栄養学	栄養指導、肥満、糖尿病、NST、がん、急性期栄養管理
学位	最終学歴
博士（医学）	和歌山県立医科大学大学院　医学研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.管理栄養士養成施設　臨地実習教育指導	2010年6月～2018年3月	臨地実習教育指導を担当した。指導者数　160名。
4 その他		
1.管理栄養士養成施設　卒業論文、論文指導	2015年4月～2016年3月	修士課程の大学院生の研究に関し、意見交換、アドバイスを行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.日本糖尿病療養指導士	2015年4月1日	日本糖尿病療養指導士認定機構
2.栄養サポートチーム専門療法士	2011年2月17日	日本臨床栄養代謝学会
3.管理栄養士免許	2002年8月30日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.JSPENスカラーシップ賞2020	2020年12月	日本栄養治療学会
2.和歌山県立医科大学名誉教授会賞	2014年6月	和歌山県立医科大学名誉教授会
4 その他		
1.和歌山県立医科大学保健看護学部　講師	2022年10月～2022年12月	看護学生2年生に対して、特別授業として病態栄養治療学の講義を行った。
2.武庫川女子大学　講師	2021年3月30日	食創造科学科3回生に対して、疾患を持つ患者における食事と保健機能食品について、病院給食における献立作成について講義を行った。
3.和歌山信愛女子短期大学　講師	2019年6月～2021年6月	生活文化学科（食物栄養専攻）の学生に対して、臨床栄養学の講義を行った。
4.和歌山県栄養士会生涯教育　講師	2016年1月28日	和歌山県栄養士会員に対して、栄養スクリーニングとアセスメントについて講義を行った。
5.和歌山県立医科大学医学部　講師	2015年3月9日	医学部4年生に対して、病態栄養治療学における栄養指導について講義を行った。
6.和歌山県立医科大学医学部　講師	2014年9月1日	医学部4年生に対して、病態栄養治療学における栄養指導について講義を行った。
7.和歌山県立医科大学保健看護学部　講師	2013年10月	看護学生2年生に対して、チーム医療と栄養食事療法について、NSTなどのチーム医療について講義を行った。
8.和歌山県立高等看護学院　講師	2013年9月～2017年10月	看護学生2年生に対して、治療論（栄養療法）の講義を行った。
9.藍野学院短期大学　講師	2012年7月13日	看護学生に対して成人看護学概論（栄養指導）の講義を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.間食がどうしてもやめられない患者におすすめの献立	単	2024年3月	(株)メディカ出版、糖尿病ケア+	糖尿病患者に対する2日間の食事献立を立案しながら、間食の適切なとり方について解説した。 著者：田中明紀子
2.味覚と生活習慣病	共	2021年2月	日本体質医学会雑誌	五大基本味(甘味、旨味、塩味、酸味、苦味)以外に第六の味覚として脂肪味が注目されており、肥満患者では脂肪味の味覚閾値の上昇が認められる。味覚障害の臨床、原因などについて述べ、亜鉛欠乏による味覚異常の症例を提示した。また、新型コロナウイルスによ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
3.明日へ羽ばたく栄養士	単	2015年6月	日本栄養士会雑誌 第58巻6号	る味覚障害についても触れた。 著者：西　理宏、田中明紀子 「栄養指導技術を高め、病気の予防から治療へのトータルなアプローチを」という題名において、大学病院勤務の管理栄養士としての、経験や大学院修士課程での研究内容、これからの管理栄養士に求められる技術について執筆した。 著者：田中明紀子
2 学位論文				
1.Reduced Fat Taste Sensitivity in Obese Japanese Patients and Its Recovery after a Short-Term Weight Loss Program	共	2022年12月	Journal of nutritional science and vitaminology.68 (6):504-512. 2022.	近年は脂肪酸独自の味を感知する味覚受容体としてGPR120が特定され、第6の味覚(脂肪味)が注目されている。先行研究では、脂肪味の感度と脂質摂取量やBMIにおいて関連がみられた。しかしながら、日本人を対象とした報告ではBMI30kg/㎡以上の肥満症は含まれておらず、日本人肥満症における実態は明らかではない。そこで、本研究では肥満症における味覚異常（脂肪味、旨味、甘味）と減量における変化について検討した。結果として、コントロール群（非肥満）と肥満群において、旨味と甘味、脂肪味についての味覚感度を比較したところ、肥満群で脂肪味の有意な低下がみられた。本研究における日本人肥満症を対象とした短期減量プログラムでは、旨味や甘味の変化はなく、脂肪味の感度改善が実証された。 著者： Akiko T, Tatsuma M, Tatsuya I, Takashi A, Taka-aki M, Masahiro N
2.Association between teaching and support skills and subjective effectiveness of nutritional guidance of registered dietitians at hospitals in a Japanese prefecture.	共	2014年1月	Environmental health and preventive medicine. 19(1): 72-80.2014.	日本のある県における管理栄養士の栄養指導技術（コーチング）の活用状況を明らかにし、栄養指導の効果と技術と対人援助技術の関連性を検証した。結果として、いくつかの栄養指導技術は利用されていたが、利用されていなかったものもあった。効果に関連している要因は栄養指導の継続的なシステムの利用と栄養指導の合計得点、KiSS-18の合計得点であった。準備期の時期では、その技術が栄養指導の高い効果を作るひとつになっていた。。その結果として準備期においてこのような技術を用いることが望まれる。これらの結果は、栄養指導の継続的なシステムを用いることや栄養指導技術を用いること、社会的スキルを向上することが効果を高めるために必要であることが示唆された。 著者：Akiko T, Masao K, Kazuko Y, Ikuharu M
3 学術論文				
1.腎機能低下、水分制限の必要な低栄養患者における中心静脈栄養管理の一例（査読付）	共	2024年9月	日本病態栄養学会誌.27(3):271-276.2024.	脳腫瘍に対し腫瘍摘出術施行された70代女性。溢水により呼吸状態悪化しICU入室歴あり。また、薬剤性の腎障害を合併し透析管理が開始後、低栄養と下痢の改善目的にNST介入となった。介入後早期に経腸栄養のみで必要栄養量充足可能となり透析離脱できたが、下痢が悪化し静脈栄養のみで栄養管理の方針となった。腎機能低下があり、腎不全用アミノ酸輸液の使用が望ましいが、溢水による呼吸状態悪化が危惧され、水分制限も必要であった。そのためアミノ酸含有量の少ない腎不全用アミノ酸輸液での栄養投与では十分なたんぱく質投与が困難であり総合アミノ酸輸液の使用による栄養管理の検討を行った。 著者：大山真穂、小畑摩由子、前西佐映、阿部　諒、東　佑美、田中明紀子、望月龍馬、石橋達也、古田浩人、松岡孝昭、西　理宏
2.管理栄養士による甲状腺分化がん術後の放射性ヨウ素内用療法におけるヨウ素制限食栄養指導の実態（査読付）	共	2024年4月	日本病態栄養学会誌.27(1):135-142.2024.	甲状腺分化がんに対する放射性ヨウ素内用療法ではヨウ素制限が必要であるが、患者個人による厳密な制限は困難が伴う。今回管理栄養士によるヨウ素制限食栄養指導の効果を検討した結果 尿中ヨウ素濃度は中央値207(四分位129-335)μg/gCreより66(45-82)μg/gCreと減少し、ヨウ素制限成功の100μg/gCre未満は11例中9例(82%)と高率であった。アンケートでは栄養指導の理解度、アドヒアランスは良好も時に禁止食品の摂取が認められた。これらのことからヨウ素制限食栄養指導後尿中ヨウ素は有意に低下し、ヨウ素制限成功率は82%と高く、栄養指導は有用と考えられた。 著者：茂木友菜、田中明紀子、松岡孝昭、赤水尚史、西　理宏
3.ビタミンD欠乏性骨軟化症を来した完全菜食主義の一例（査読	共	2023年9月	日本病態栄養学会誌.27(1):135-142.2024.	症例は53歳女性。8年前より両膝の疼痛、4年前より全身痛、3年前より歩行困難が出現した。初診時、全身痛、血清骨型ALP、PTH高値、血清Ca低値、ビタミンD欠乏を認めた。12年前より完全菜食主義であ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
付）				り、骨密度、骨シンチグラフィーの結果からビタミンD欠乏性骨軟化症と診断された。本人の意思を尊重し、完全菜食主義でも可能な食事療法について栄養指導を実施した。初回指導時は1日2食のため全体的な栄養素の不足を認めた。栄養指導により目標量を充足する栄養素が増加したが、ビタミンD、カルシウム、ビタミンB12、亜鉛は完全菜食主義の食事のみでは充足困難であり、医薬品(アルファカルシドール、乳酸カルシウム、メコバラミン、ポラプレジンク)が開始された。介入により骨密度、握力が改善し、疼痛、歩行困難も軽快した。完全菜食主義の背景には様々な要因があり、信条を尊重しつつ、健康障害を来さないよう介入していく必要がある。 著者：小畑摩由子、前西佐映、茂木友菜、大山真穂、阿部　諒、東　佑美、田中明紀子、小出知史、望月龍馬、松岡孝昭、西　理宏
4.2型糖尿病患者におけるサルコペニアの実態（査読付）	共	2015年10月	日本体質医学会雑誌. 77(3):155-161.2015.	サルコペニアと糖尿病は互いに病状を進行させる関係であり，糖尿病患者におけるサルコペニアの予防や治療法の確立は非常に重要である。そこで、2型糖尿病患者（T2DM）のサルコペニアの実態について明らかにすることを目的とした。結果として、2型糖尿病高齢者は地域高齢者に比べて，サルコペニアに陥りやすいこと，女性2型糖尿病患者の握力と摂食嚥下機能の指標となる舌圧が相関することが示された．また，活発な生活活動や運動を習慣とすることが，サルコペニアの予防とインスリン分泌能の維持に有効である可能性が示唆された。 著者：眞城　桂、橋本美晴、木村宴子、前山　遥、笹野馨代、田中明紀子、川村雅夫、古川安志、西　理宏、赤水尚史
5.NST介入にて完全経口摂取に移行しえた急性妊娠脂肪肝の1例（査読付）	共	2015年9月	日本病態栄養学会誌.18(3):387-392.2015.	急性妊娠脂肪肝は妊娠に伴って発症する稀な脂肪肝であるが、最近脂肪酸β酸化に関わる酵素LCHADの異常との関連が報告されている。食事療法としては肝機能の状況に応じ低血糖の予防、適切な蛋白質、脂質（長鎖脂肪酸）の制限を行うことが重要であり、NST介入による栄養管理が有用であった。 著者：笹野馨代、田中明紀子、前山　遥、川村雅夫、古川安志、石田和也、瀧藤克也、島田佳代子、西岡英城、大石千早、松井由樹、中島珠生、武野明香、宮崎友里、西　理宏
6.根昆布による甲状腺機能低下症をきたした5例	共	2013年2月	日本体質医学会雑誌.75(1):37-41.2013.	根昆布或いは根昆布水摂取によると思われる甲状腺機能低下症を呈し、摂取中止により改善した5例(男3例、女2例、54～79歳)を提示した。検査所見では5例ともTSH上昇、FT4低下に比較してFT3は正常範囲内に保たれ、FT3/FT4比は平均5.18と通常の3前後に比較して高値であった。甲状腺自己抗体は1例のみ陽性であった。甲状腺エコーでは甲状腺多発嚢胞を2例に認めた。 著者：西　理宏、山岡博之、田中明紀子、川村雅夫、南條輝志男、赤水尚史
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.第58回日本糖尿病学会近畿 地方会 シンポジウム「ICTを活用した糖尿病チーム医療」シンポジスト 遠隔医療支援システムを用 いた大学と僻地診療所間の遠隔栄養指導の取り組み	共	2021年10月	日本糖尿病学会	従来、僻地における患者の多くが高齢者であり、専門的医療を受けるには交通手段や時間的問題を抱えている。僻地と大学を繋ぐことができる遠隔医療支援システムは有用なツールであり、栄養指導の取り組みについて報告した。 著者：田中明紀子、内川宗大、東　佑美、小出知史、望月龍馬、石橋達也、古田浩人、松岡孝昭、西　理宏
2.第51回アジア太平洋公衆衛生学術連合 Food intake situation of middle and older age Japanese expatriates living in Philippines	共	2019年9月	アジア太平洋公衆衛生学術連合（ポスター発表）	フィリピン・セブ州、タイ王国・チェンマイ市にロングステイする中高年日本人の食行動を明らかにし、日本人ロングステイヤーの健康支援を検討する資料を得ることを目的とし、アンケート調査を行った。 著者：Akiko T, Ai N, Ikuharu M

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
and Thailand.				
3.第25回世界健康教育学 Relationship between subjective effectiveness of nutritional guidance by national registered dietitians in hospitals and their teaching and social skills.	共	2013年8月	世界健康教育学会（ポスター発表）	日本のある県における管理栄養士の栄養指導技術（コーチング）の活用状況を明らかにし、栄養指導の効果と技術と対人援助技術の関連性を検証した。 著者：Akiko T, Masao K, Kazuko Y, Ikuharu M
２．学会発表				
1.第72回日本体質医学会総会 肥満と味覚異常	共	2022年10月	日本体質医学会	肥満患者における味覚について検証し、肥満患者において減量がそれらに影響を与えているか検証した。 著者：田中明紀子、望月龍馬、松岡孝昭、石橋達也、西　理宏
2.第64回日本糖尿病学会学術 集会 肥満と味覚異常	共	2021年6月	日本糖尿病学会	肥満患者における味覚について検証し、肥満患者において減量がそれらに影響を与えているか検証した。 著者：田中明紀子、小出和史、望月龍馬、松岡孝昭、西　理宏
3.第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会 当院におけるICU栄養カンファレンスの取り組みについて	共	2019年2月	日本静脈経腸栄養学会	ICU栄養カンファレンスで介入した患者における栄養管理の現状について評価した。 著者：田中明紀子、望月龍馬、古川安志、西　理宏、宮本恭兵
4.第28回近畿輸液・栄養研究会　当院におけるICU栄養カンファレンスの取り組みについて	共	2018年12月	近畿輸液・栄養研究会	ICU栄養カンファレンスで介入した患者における栄養管理の現状について評価した。 著者：田中明紀子、望月龍馬、古川安志、西　理宏、宮本恭兵
5.第13回日本医療マネジメント学会和歌山支部学術集会　当院の遠隔外来における栄養指導の取り組みと、今後の課題	共	2018年4月	日本医療マネジメント学会	医師以外の専門職として、看護師、言語聴覚士など、徐々に遠隔外来の実施内容の拡大が図られている。そこで、このたび管理栄養士が遠隔外来において栄養指導を実施したことについて報告した。 著者：田中明紀子、多田明良、小出知史、村田清美、前西佐映、原　友菜、阿部　諒、青木　和、太田由希、橋本美晴、望月龍馬、古川安志、二神昌世、榊　厚二、佐々木美夫、山野貴司、上野雅巳、西　理宏
6.第59回日本糖尿病学会年次学術集会 糖尿病患者における Phase Angleと臨床指標との関連	共	2016年5月	日本糖尿病学会	Phase Angleは、栄養状態の評価や各種疾患における生存率などの予後予測としての有用性が報告されている。そこで、糖尿病患者におけるPhage Angleと臨床指標、体組成指標との関連について検討した。 著者：田中明紀子、西理宏、木村宴子、橋本美晴、三沢奈緒子、石本由希、望月龍馬、川村雅夫、古川安志、古田浩人、赤水尚史
7.第31回日本静脈経腸栄養学会年次学術集会　個別対応食を用いた摂食不良患者への対応	共	2016年2月	日本静脈経腸栄養学会	管理栄養士が病室訪問し、適宜患者の要望を取り入れて対応した個別対応食の提供状況について調査した。 著者：田中明紀子、石本由希、望月龍馬、川村雅夫、石橋達也、川嶋弘道、瀧藤克也、赤水尚史、西　理宏
8.第58回日本糖尿病学会年次学術集会　2型糖尿病患者における前頭葉機能と食行動の関係	共	2015年5月	日本糖尿病学会	2型糖尿病患者における前頭葉機能と食行動の関連について検討した。 著者：田中明紀子、笹野馨代、橋本美晴、木村宴子、前山　遥、川村雅夫、古川安志、古田浩人、赤水尚史、西　理宏
9.第29回日本静脈経腸栄養学会年次学術集会　当院入院患者の栄養状態の解析	共	2014年2月	日本静脈経腸栄養学会	入院患者における入院時の血中アルブミンについて、栄養指標としての有用性を検討し、他の栄養指標（単独指標、複合指標、症状別指標）との関連性についても検討した。 著者：田中明紀子、石橋達也、川村雅夫、西岡英城、島田佳代子、大石千早、瀧藤克也、川嶋弘道、西　理宏
３．総説				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2009年	日本栄養治療学会
2.2008年	日本病態栄養学会